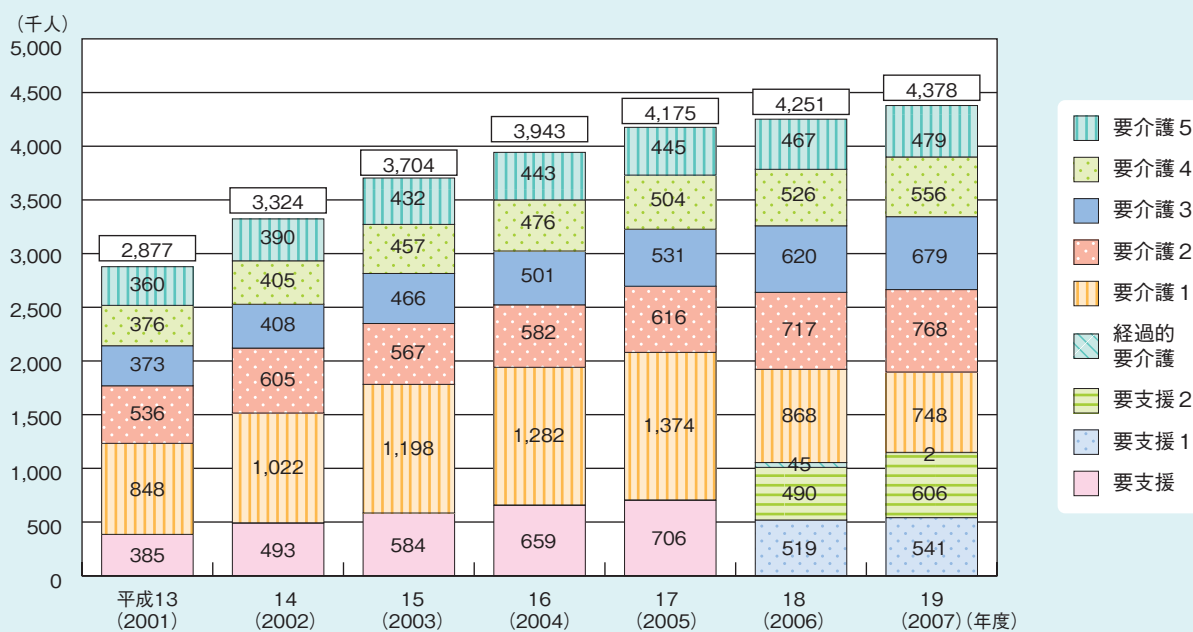


3 高齢者と健康・福祉

○高齢者の要介護者等数は急速に増加しており、特に75歳以上で割合が高い

- ・ 65歳以上の要介護者等認定者数は平成19（2007）年度末で437.8万人。平成13（2001）年度末から150.1万人の増加
- ・ 第1号被保険者（65歳以上）の15.9%を占める
- ・ 75歳以上で要介護の認定を受けた者は21.6%を占める

図1-2-3-10 第1号被保険者（65歳以上）の要介護度別認定者数の推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」
 (注) 平成18年4月より介護保険の改正に伴い、要介護度の区分が変更されている。

表1-2-3-11 要介護等認定の状況

単位：千人、()内は%

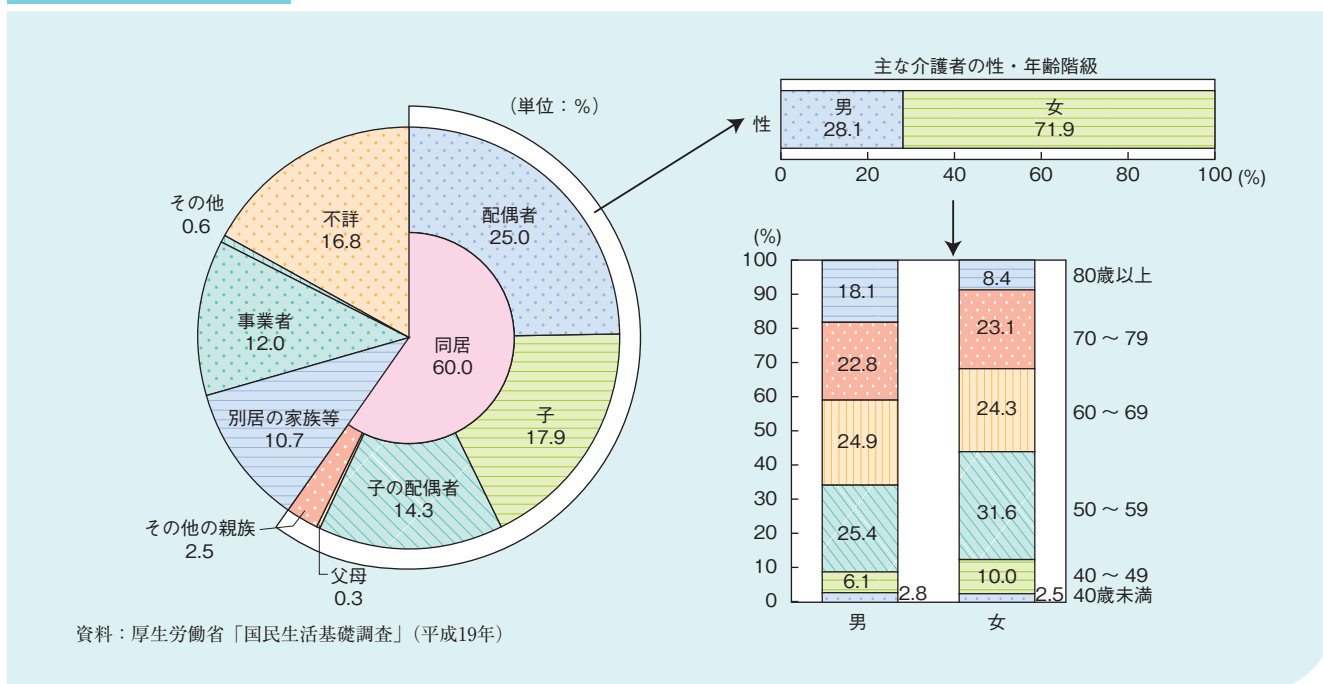
65～74歳		75歳以上	
要支援	要介護	要支援	要介護
187	460	960	2,769
(1.3)	(3.1)	(7.5)	(21.6)

資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」（平成19年度）より算出
 (注) 経過的要介護の者を除く。

○主に家族（とりわけ女性）が介護者となっており、「老老介護」も相当数

- ・要介護者等からみた主な介護者の続柄をみると、介護者の6割が同居している者
- ・その主な内訳は、配偶者が25.0%、子が17.9%、子の配偶者が14.3%。性別では男性が28.1%、女性が71.9%と女性が多い
- ・同居している介護者の年齢について、男性では65.8%、女性では55.8%が60歳以上であり、いわゆる「老老介護」のケースも相当数存在

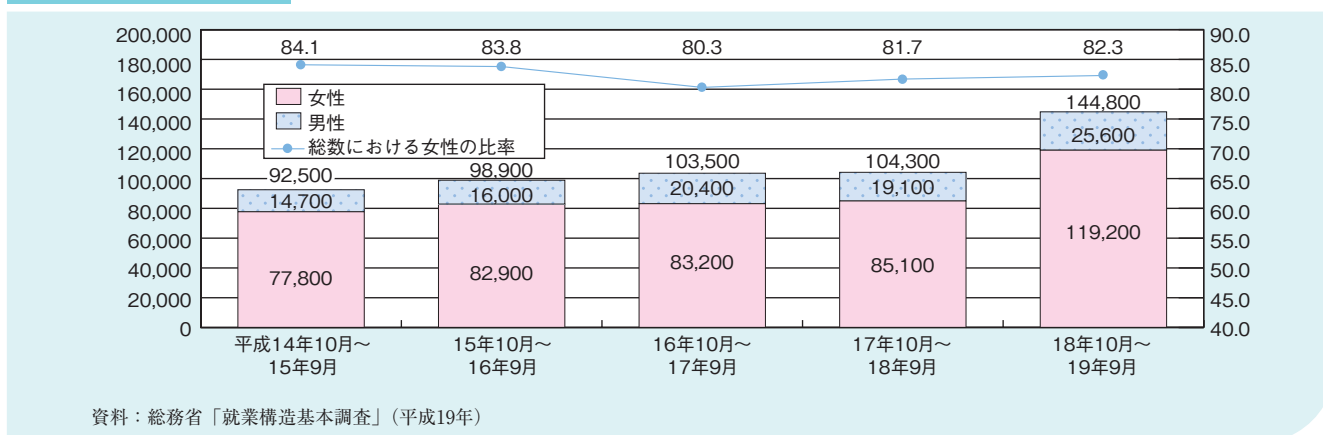
図1-2-3-15 要介護者等からみた主な介護者の続柄



○家族の介護・看護のために離職・転職する人が増えている

- ・家族の介護や看護を理由とした離職・転職者数は増加
- ・平成18年10月から平成19年9月の1年間で144,800人が家族の介護や看護を理由に離職や転職
- ・女性の離職・転職が多く、全体の82.3%を占める

図1-2-3-16 介護・看護を理由に離職・転職した人数

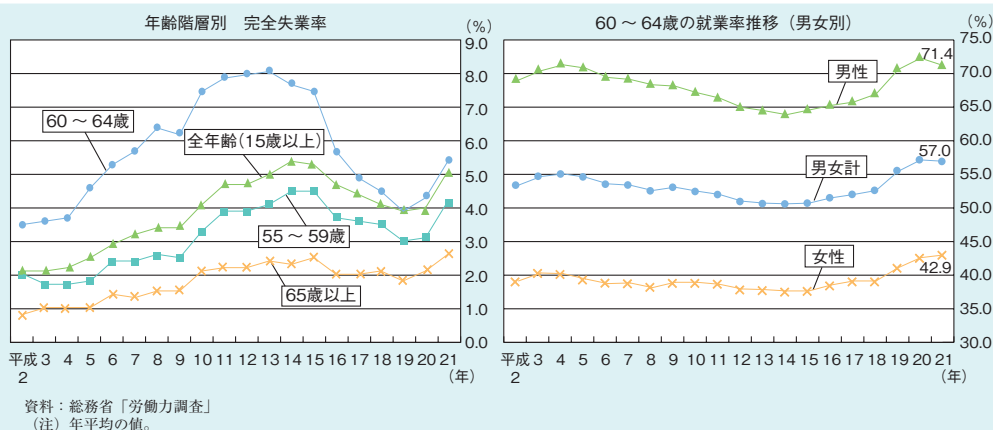


4 高齢者の就業

○高齢者の雇用情勢は平成15～19年にかけて大幅に改善したが、近年は経済情勢の悪化を受け失業率は上昇

- ・ 高齢者の雇用状況は、平成15～19年にかけて大幅に改善したが、近年、経済情勢の急速な悪化を受けて悪化
- ・ 60歳代前半の就業率は平成20年までは大きく上昇したものの、21年においてはその伸びは鈍化（改正高年齢者雇用安定法が平成18年に施行され、企業は段階的に65歳までの雇用措置を実施）

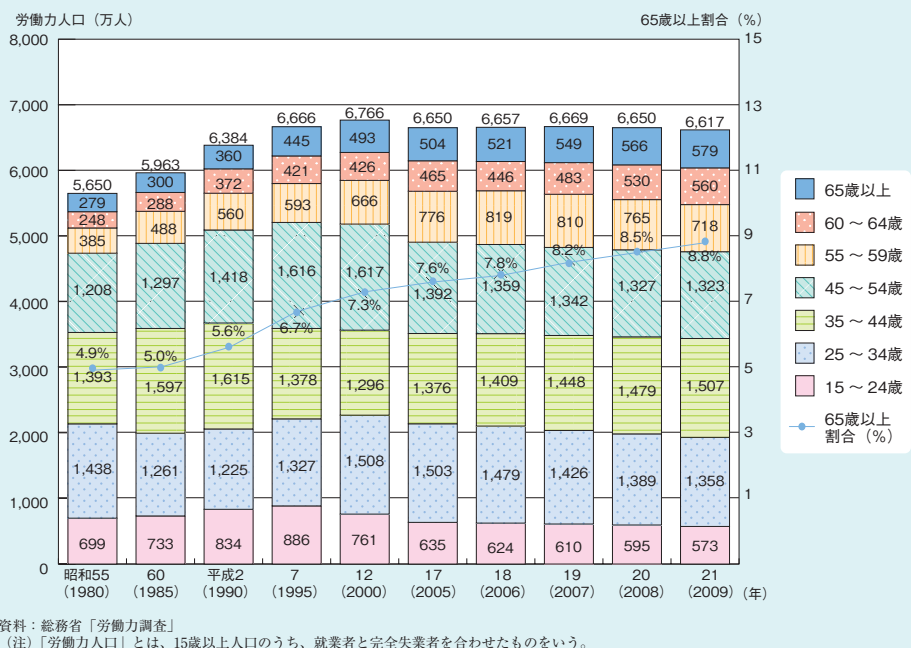
図1-2-4-7 年齢階級別にみた完全失業率、就業率



○平成21（2009）年の労働力人口は前年と比べ減少したが、65歳以上では増加し労働力人口総数に占める65歳以上の者の比率は上昇

- ・ 平成21（2009）年の労働力人口は6,617万人で、前年と比べ33万人の減少
- ・ 65歳以上の者は579万人（8.8%）となり、労働力人口総数に占める65歳以上の者の比率は上昇

図1-2-4-8 労働力人口の推移

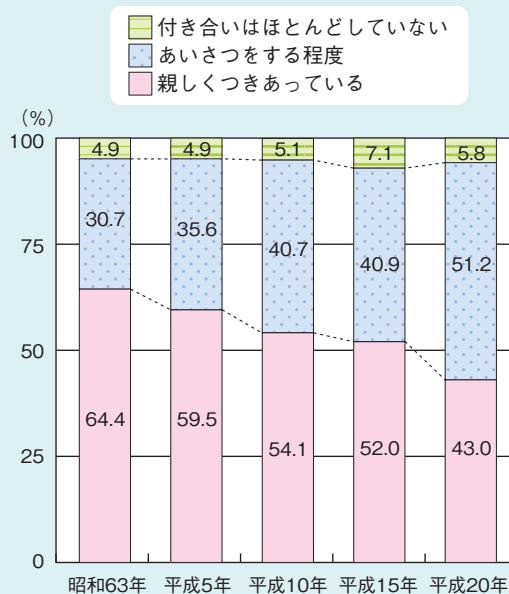


5 高齢者の社会参加活動

○近所の人たちとの交流が弱まっている

- ・60歳以上の高齢者の近所の人たちとの交流について、「親しくつきあっている」が減少
- ・一方、「あいさつをする程度」が増加しており、近所同士の結びつきが弱まっている（図1-2-5-1）

図1-2-5-1 近所の人たちとの交流

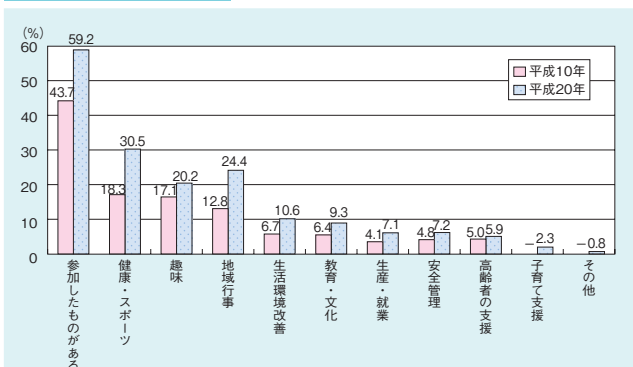


資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

○高齢者のグループ活動への参加は約6割で、今後の参加したい高齢者は約7割

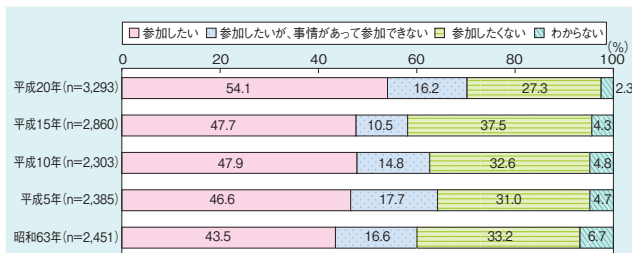
- ・60歳以上の高齢者のグループ活動への参加状況について、59.2%が何らかのグループ活動に参加しており、10年前と比べて15.5ポイント増加（図1-2-5-2）。
- ・今後の参加意向について、「参加したい」（「参加したい」、「参加したいが、事情があって参加できない」と回答した人の計）と考える人は70.3%となっており、過去の調査と比較すると増加（図1-2-5-5）

図1-2-5-2 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 (注1) 調査対象は、全国60歳以上の男女
 (注2) 「高齢者の支援」は、平成10年は「福祉・保健」とされている。

図1-2-5-5 高齢者のグループ活動への参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

コラム1：家族介護は家庭内だけの問題なのか？

～男性介護者の活動を通じて見えてきたこと～

- 要介護者等と同居している主な介護者（介護する人）の4人に1人（28.1%）は男性である。男性介護者は家事に不慣れ・相談できる相手を見つけにくい等、精神的にも身体的にも余裕のない孤立した介護生活に追い込まれる例が見られ、離職・転職により、経済的な面でも困難を抱える男性介護者は少なくない。
- このような背景から、近年、男性介護者が集まって話し合い、情報を共有する場や、男性介護者を支援する活動が広がっている。
- ここでは2つの取組を紹介。
 - ・平成6年に「荒川男性介護者の会『オヤジの会』」（東京都荒川区）の活動が始まった。
 - ・2か月に1回、夕方に開催される定例会では本音で話し合う懇親会と介護についての勉強会を実施。
 - ・夜の外出が難しい人もいるため、区の社会福祉協議会と連携し、平成20年に「ふれあい粋・活サロン『男性介護者サロンM』」を開始。2か月に1回、昼間に開催している。
 - ・当初の7名だった会員は、現在は約30名まで会員が増えた。
 - ・また、平成21年3月、「男性介護者と支援者の全国ネットワーク（通称「男性介護ネット」）」が結成された。主に、①調査・研究とそれを踏まえた政策提言、②男性介護者や支援団体間の交流や情報交換を図るための交流会やワークショップ等の開催、③情報の発信などを行っている。
 - ・また、152名の男性介護者の思いや経験を述べた『男性介護体験記』を発行するなど、多くの人たちと一緒に介護感情を分かち合い、さらには、地域の共有財産として「経験知」を蓄えていくための取組を行っている。

コラム2：高齢者の雇用促進

- 60才以上の高齢者が全従業員の3割以上で、幅広い年齢を雇用している静岡県磐田市の機械器具製造会社を紹介。
- 全従業員237人の平均年齢は45.8歳、うち60歳以上の従業員は79人であり、全従業員の3割を超える。さらに27人は70歳以上で、最高齢は89歳。一方、いちばん若い社員は16歳であり、10代から80代までの幅広い年齢で構成された、いわば“3世代同居企業”。
- 製造工程が多数あるために多様な業務があり、その中から高齢者に向いている仕事、あるいは高齢者にもできる仕事を選択できることから、多くの高齢者の雇用が可能となっている。
- きっかけは1990年代前半。バブル期に若者が採用できなかったため、「募集 健康なおじいちゃん！おばあちゃん！」と題したチラシを配布し、90歳までの元気な方を募集したのが始まりだった。
- 実際に働く最高齢の女性の方は「家にいても退屈だが、ここで働いていると楽しい」と話し、最高齢の男性の方は「ここに来て、世間話をしながら笑うことで、ボケ防止にもなる。元気なうちはずっと働きたい」と生き生きとした表情で話している。